



は人間が食べることが出来ないものを食べて人間が食べることの出来るものを作るとい、素晴らしい生き物です。

ヨーロッパでは、酪農畜産を中心にしたまちづくりをしている所があるそうです。大きな規模でなくて、牧場の周囲に牧草を育てる田んぼがあって牛の糞を肥料にする循環型の小規模集落です。

うちの牧場でも食品残さ例えば酒かすなどを餌に混ぜて食べさせています。本来処分するのにコストがかかるところが牛に食べさせることでマイナスがプラスになります。そこに牛の価値があるし、そこをつきつめていきたいと思います。



コロナ禍は私にとってはありがたいことで、距離に関係なく酪農について同じ思いを持つ仲間と情報交換がインターネットでできますし、余計な集まりをしなくていいので時間も余裕ができました。それから、私の声掛けで月に1回、県内の酪農家6名、石川県1名富山県1名で牛の状態を見せ合うミーティングをオンラインでやっています。データを見ると経営状態も見えてきます。耳の痛い話をされるので気分のいい会ではないのですが、頑張っついていかないとだめだなと感じます。

乳牛にとって幸せってなんだろうと思う時に、人から必要とされる存在になることだと思います。人間と乳牛の違いは、乳牛